

直谷城歴史探索

中世の戦人へのロマンを追い求め

7月6日(水)、「直谷城歴史探索」ツアーを実施しました。このツアーは、年間の行事予定には入っていませんでしたが、平戸の「甲子夜話(かしゃわ)を読む会」の方々から「ひらど遊学ねっと」の籠手田恵夫さんを通して、「内裏城の嵐」を出された和田さんにぜひ直谷城の案内をいただきたいという要望が寄せられ、今回の実施につながりました。前日は梅雨の合間の青い空が広がる好天でしたが、この日は早朝から雨。この雨の中を18名(内スタッフは4名)の方が集まってくれました。平戸市はもとより、松浦、伊万里市からも参加していただきました。



本丸跡地でのガイド

城址を散策する前に、「しいのきの館」の研修室で直谷城に関する「歴史」や「民話」について、和田さんから講話。

『直谷城には「内裏城」や「安徳天皇」といった言葉が残っていることから、1185年に起こった壇の浦の合戦以降に山城として築かれたのではないかと、安徳天皇入水の説話は平家再興の意図によるもので、あるいはこの城に残る伝説は史実なのかもしれない…』

そうしたロマンあふれる話が続きました。(写真右)

また、山城研究家でもある吉福さんからは山城としての直谷城跡の地形や遺構について説明をしていただきました。



熱のこもった講話

大粒の雨の中 城址をゆく

講話が終わるころ、ちょうど雨が小降りになりましたので追手門の方から城跡へと入って行きました。

最初の遺構が土塁です。豊かな山の凹凸っを利用するなかで、その谷合に4列の土塁が盛られています。そこからは、10m以上も垂直に立つ断崖を見上げられ、そのすぐそばに掘られた井戸と合わせ、懸命に城を守る戦人たちの姿が、実際に浮かんでくる気がします。

大粒の雨が杉の木立を突き抜けるように降り出しました。本来なら見上げながら進んでいただきたいコースですが、岩石を削ってつくられた階段、倒木等、どうしても足元が気になります。時折止まって聞く解説も、雨の音にかき消されます。

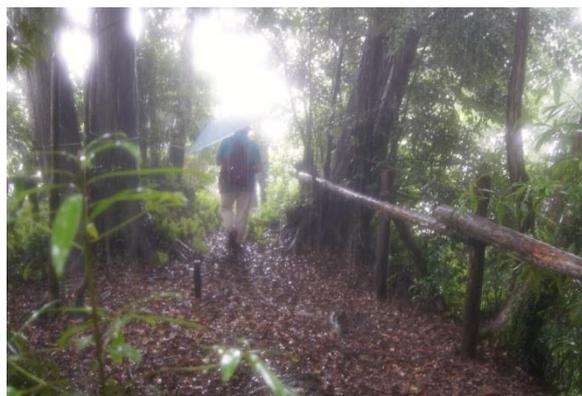
やっとのことで全員が本丸跡へ辿りつきました。下の家並みからすると、標高80ほどをのぼったことになります。これも天気が良ければ絶景の福井谷の眺めが、雨にかすんで見えませんでした。『姫落とし』の伝説が残る岩場も、不気味にかすんでいました。

直谷城の特筆に値する絶壁を始め地形(起伏)を利用した城の姿を満喫していただけなかったのが残念でした。

「天気がいい日にもう一度来たい」そんな声をいただきながら、この日の案内会を終えました。



井戸付近に行く一行



幻想的な姫落とし付近